



発行
一宮市児童育成連絡協議会
事務局
一宮市栄3丁目1番2号
尾張一宮駅前ビル4階
(一宮市社会福祉協議会内)
TEL 0586-85-7024
FAX 0586-85-7025

令和6年3月14日

ウェブサイト「一の宮っ子」<https://www.intell-inc.com/ichinomiya.jido-ren/>



▲「正解が描けるかな」

ほくたちD☆Friends子ども会
子ども会は現在115名で活動しています。今回は六年生6名で遊びの発表を行いました。発表した遊びは「伝えてみよう！想像してみよう！」です。一人が出題者となり、お題になるモノやキャラクターなどの絵を決めます。そのお題の特徴を言葉だけで伝えて、みんなはその言葉をもとに絵を描いていき、最後に完成した絵を見て正解は何か答えます。ほくたちは「みかん」「ブタ」「いちみん」の3問に挑戦しました。言葉だけで形や大きさなどを伝えることはとても難しかったですが、観客の皆さんも「○○かな？」「○○じ

大志連区 D☆Friends子ども会
六年 堀場 遥太

あそびの発表

新年子ども会大会

やない？」と一緒に考えてくれたことがうれしかったです。大きな舞台で発表することはとても勇気がいりましたが、やりとげることができて自分に自信がつけました。

ほくは六年生なので、子ども会の行事に参加することがあと少しになってしましますが、この大会のために集まった友達やお母さんたちと楽しく過ごすことができたことに感謝して、これからもきずなを深めていきたいです。

西成連区 時之島子ども会

五年 長澤 克仁

ほくたち、西成連区時之島子ども会は、今回身近な物でも楽しく遊べる事を紹介しました。紹介した遊びは2種類で、一つ目が「人間オセロ」です。人間オセロとは、紙皿の表うらに違う色をぬってばらまき、2チームで自分のチームの色に制限時間内でめくり合い、色の多い方が勝つゲームです。子ども会の行事で大人もまざり遊んだ時、「ヒザゲー」や「こしがー」と

さけんでいました。



▲「落とすな、落とすな！」

二つ目は、「風船ポンポンリレー」です。風船ポンポンリレーとは、2チームに分かれて、少しはなれた所に置かれたイスまで風船をたたきながら運び、次の子にわたすリレーです。風船が高く上がったリ、横にそれたり、なかなか思い通りになりませんのでした。練習をしているときもリハーサルでも本番でも、楽しく明るくみんなとうまく出来たのが、ほくは一番うれしく思いました。最後までいっしょにがんばった仲間と、出番をくれた役員の方々、ありがとうございました。観客のみなさんに最後まで見ていただき、うれしかったです。

浅井町連区 大野子ども会

六年 甲斐 千歳

私達大野子ども会は、現在57名で活動しています。今回は六年生11名で遊びの発表を行いました。

昨年の夏に子ども会縁日を行



▲大盛況でした

いましてので、今回はその中の一部を発表しました。
子ども会縁日は、ヨーヨー釣り、ポップコーン・ジュース、ボール投げ、輪投げ、射的、魚釣り、ボーリング、ひもつり、ワークシヨップ、型抜きなどの店を手作りで準備しました。
舞台上では、射的、輪投げ、魚釣りを演し、プロジェクターで実際の様子を投影しました。会場に來ている子ども達も一緒に参加してもらおうとリハーサルしていましたが、恥ずかしがって集まらなと予想していました。しかし本番ではそんな予想を裏切るほど大盛況で、舞台上に上がれない子もいるほどでした。「子ども会大会」のテーマである、子どもに喜んでもらうという本来の純粋な目的が達成できて大成功でした。
大きな舞台に立つという貴重な経験をさせていただき、六年生の絆も深まり最高の思い出となりました。ありがとうございます。

かべ新聞

※審査は中日新聞一宮総局に依頼しました。
審査員（敬称略）

中日新聞NIE事務局長 重村 敦
中日新聞NIEコーディネーター 伊藤 彰敏

最優秀作品



北方町連区
北方子ども会

北方町連区 北方子ども会

六年 梶浦 佑太

昨年一五〇周年をむかえた北方小学校。イベントを盛り上げてくださった地域の方々に、かべ新聞を見てもらいたいと思い作り始めました。
まず「未来につなげたい北方町の大切な景色」というテーマを考え、それを基に作っていきましました。最初はなかなかいい考えがうかびませんでしたが、みんなの気持ちがあたまでまわると、おもしろい意見や個性



浅井町連区
仲好東浅井子ども会

優秀作品



講評

右上に「狐塚ニコニコ子ども会」とあります。この言葉のとおり、子どもたちのニコニコした表情が紙面にあふれているような出来ばえです。「未来につなげたい北方町の大切な景色」を短い文章でうまくまとめています。「絶景スポット」「トンネル」「田んぼの用水路」などに着目したところがすばらしいですね。
北方町内を歩いてみたくなりました。

豊かな意見が出てきました。そして「習字のような字にしよう。」「写真の切り方はそれぞれ工夫しよう。」というすてきな案に変わっていったのです。足並みがそろってからは、意見を交かんしたり、まったく別の意見も取り入れ、みんなでワイワイ楽しく作ることができました。北方町ののどかな景色やあまり目立たないすてきな風景をほこりに思う気持ちと、地域の方々への感謝の気持ち、この景色を次の世代の人達につなげていきたいという使命感もわき上がってきました。
このように北方町の良さを知ってもらうために、く達にできることは何だろうと考え、かべ新聞が出来上がりました。

浅井町連区 仲好東浅井子ども会

六年 早川 智稀

ぼくたち仲好東浅井子ども会は、「上半期の活動」と「地域の神社、お寺、公園特集」の二つのテーマで新聞を作りました。きっかけは、もともとみんなに子ども会に入ってもらいたい、地域の公園でもっと遊んでほしいという思いがあったことです。

上半期の活動紹介では、イラストや写真をたくさん使って、草むしりや、新一年生歓迎会、スポーツ大会を紹介しました。地域の神社、お寺、公園特集では、古くから親しまれてきた神社や、しだれ桜で有名なお寺、みんなよく遊びに行く公園、あまり人がこないけど、バスケットゴールやブランコ、鉄棒など魅力的な遊具がある公園などを紹介して、自分たちでも初めて知った歴史や楽しみ方を発見することができました。さらに、余白の部分には、浅井町にあるあるの四コマまんがを描いたり、東浅井のクイズを書いたりして有効に活用することができました。

この新聞作りで東浅井のみんなといろいろなことを協力して調べることができたので仲が深まりもって仲好みな東浅井子ども会にできたと思います。

講評

「東浅井には、公園・お寺・神社がいくつあるかな？」という質問に、ついつい答えを見てしまいました。行事の紹介だけでなく、地域の歴史や身近な公園について調べたのがいいたすね。その文章から、地域の人に聞いたり、現地まで行ったりしたことが読み取れます。また四コマ漫画まで考えるなんて、びっくりです。
楽しく新聞を作っている姿が想像できます。

優秀作品



大和町連区
氏永子ども会

大和町連区 氏永子ども会

六年 松川 芽生

私たち氏永子ども会は、子ども会の会員さん達に好きな行事などについてアンケートをとり、その結果をもとにかべ新聞を作りました。

好きな行事第一位は夏祭りでした。夏祭りではヨー釣りや射的などの縁日、焼きそばなどの屋台があります。一番のメインは、太鼓と盆踊りです。私たち氏永子ども会の五・六年生は、太鼓を担当しました。公民館でみんなで練習し、太鼓のバチを家に持ち帰り、座布団をたたきました。太鼓は、腕だけではなく全身を動かすので大変でした。本番は緊張したけれど、練習と同じように一生懸命太鼓をたたき、盆踊りを盛り上げることができたと思います。

アンケートとは別で、氏永にしかない行事について紹介したいという意見があったので、「学び遊ぼう会」や「おつとめのけいこ」取材し、写真とともにかべ新聞にのせました。町内会の方々と遊んだり、お寺でお経を読んだりすることは、とてもよい経験になります。かべ新聞を作って、氏永にはたくさん楽しい行事があることが分かりました。これからも氏永の行事に進

んで参加し、氏永を盛り上げていきたいです。

講評

夏祭りの太鼓のお話がすばらしい。家に太鼓のバチを持ち帰り、ざぶとんで自主練をしたんですね。指の皮がめくれるほどがんばった姿が目につきます。こういった思いで伝統は受け継がれていくのだなと感動しました。また、アンケートに取り組み、好きな行事やこれからやりたいことがうまくまとめられています。夏祭りの太鼓の音を聴きたくなりました。



大徳連区 うぐいす南子ども会

五年 島田 竜一

ぼくは、一宮市児童育成連絡協議会のブースに行きました。ブースでは、いろいろな子ども会の活動を手作りの新聞で、同じ年の仲間達の元気な笑顔やがんばっていることを知ることができました。その他にも、プラ板で大好きなキャラクターの絵をかいいたり、ブルーシートではやさしい人に教えてもらいながら、花の風船を作りました。

3階から1階におりるときに、車いすに乗っている人と一緒にエレベーターに乗りま

した。向きを変えるのが大変そうで、大人の人が手が伝っていたことが印象に残りました。



▲ みんないっしょに楽しいね！

バザーコーナーではかしの木福祉会のブースで障がいのある人が作ったお菓子やプリン、パンを買いました。とてもおいしかったです。ステージコーナーでは、楽しそうにおどりをおどっているのを見ました。おどっている人も、見ている人も楽しそうでした。ボランティアフェスティバルでは、いろいろな人がやさしい心で困っている人や体の不自由な人を助けたり、楽しい活動を行ったりしていることを知ることができました。



一宮市児童育成連絡協議会
専門副委員長 後藤 千勢世

生きるって楽しい！

「子どもが輝く子ども会」をテーマに東海6県1市子連の子ども会指導者・育成者・シニアリーダーが参加し、開催されました。

私が参加した分科会は「自発性が育つ活動の場づくり」でした。自発性が育つ活動とは「制約の元遊ぶこと」なのです。それが、子ども会組織であると思います。

子ども会の場合が自由に創造性を作り、信頼できる雰囲気の中、自分の認知を思考から感覚へと解き放ち、気分を高めたり、想像性を発揮したりする場となるため、新たな自分を発見できるのです。

子ども会でしか経験出来ない活動もあり貴重な場が子ども会ですが、近年、子ども会会員数の減少や地域とのつながりの希薄化等、問題はたくさんあります。子ども会の必要性を理解し『子どもも大人も楽しめる子ども会』を目指し、育成する側として一緒に学んでいかなければいけないと実感した研修会でした。そして、この大切な時期に子どもたちの育成に携われる事に喜びと感謝を忘れてはいけなかったと思いました。

子ども会指導者

代表研修会

丹陽町連区 九日市場子ども会

指導者 江尻 順子

2月3日(土)、子ども会指導者代表研修会に参加させていただきました。一年間を振り返り指導者として感じたことについて意見交換を行いました。

市内には、会員数が少なく継続が難しくなっている子ども会もありました。その原因には、保護者の役員をやることができないという理由も大きく関係しています。そのため、どの子ども会もSNSを活用したり、行事を精選したり、役割分担したりと役員の負担軽減に取り組んでいました。

また、子ども会の魅力について助言者の方からお話を伺いました。子ども会は地域の1〜6年生までみんなそろって遊べる場であり、小学生の今しかできない体験、もてない感覚をいろいろと経験させてあげたいという言葉が心に残りました。

役員は大変。確かにそうです。

でも、役員を経験したからこそその喜びがあり、私たちに与えてもかけがえのない時間だと思えました。これからは「子どもたちのため」に楽しく子ども会活動に取り組んでほしいと思います。



▲子ども会指導者代表研修会



向山連区 向山1丁目子ども会

指導者 成瀬 美香



▲活発な意見交換が行われました

子ども会指導者代表研修会が行われ、市内の子ども会指導者の方々と、指導者として感じたことについて意見交換をしました。

今年度はコロナが5類となり、様々な行事が再開され始めました。久しぶりの行事で子ども達の楽しむ姿が見られた、地域の方と交流がもててよかったという話を聞くことができました。一方で、経験者や資料の不足、役員の負担、子どもの減少などによる苦労もあったという子ども会が多かったです。様々な課題を抱える中で、活動内容を精選したり、アプリを活用して情報を共有したりと、どの子ども会も工夫しながら活動して

いました。多くの方が、指導者は大変だったけれど、子ども達のために子ども会は大切であるという思いをもっていることが印象的でした。

子ども会活動は、役員だけでなく、保護者、地域の方、そして子どもも一緒に取り組むという意識が大切だと思います。持続可能な子ども会のあり方を地域全体で考えていけるとよいのではないかと感じました。

表彰

第61回

愛知県子ども会大会

県知事表彰

向山連区 牛野子ども会

▲内田会長と牛野子ども会大塚塚也さん



県知事感謝状

木曾川町連区 八木 丈之様

県社協会長表彰

大徳連区 北今子ども会

小信中島連区 二ツ屋北子ども会

県子連会長表彰

宮西連区 仲よし子ども会

奥町連区 旭三子ども会

萩原町連区 朝宮子ども会

県子連会長感謝状

西成連区 近藤 扶泉様

小信中島連区 大津 乃里予様

広報委員

一年間子ども会活動の原稿をお寄せいただきありがとうございました。大変でしたがとても良い経験ができました。ありがとうございます。

河辺 三代・大窪 文子
奥田 純子・赤野 ルミ子
加藤 真弓

